

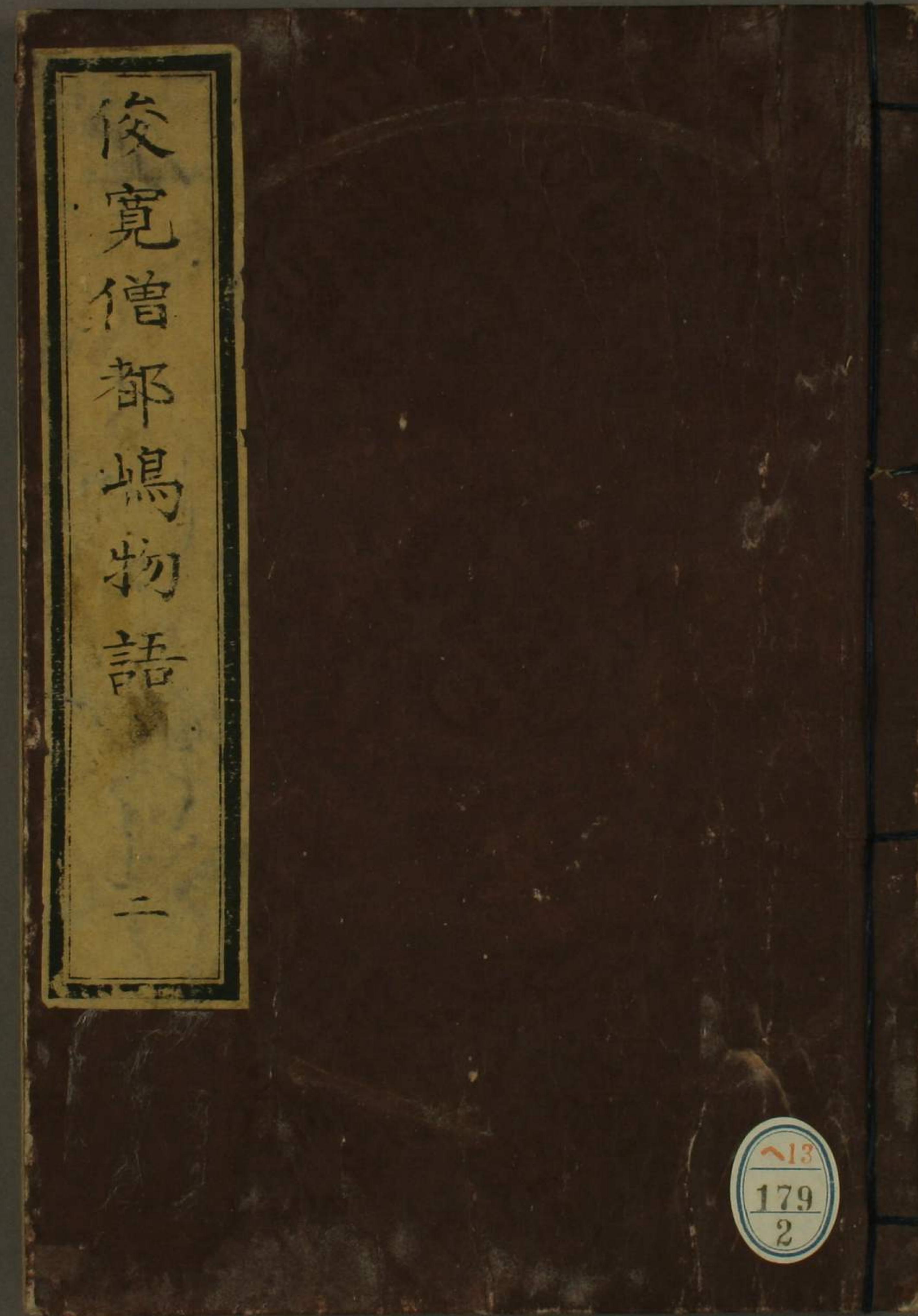
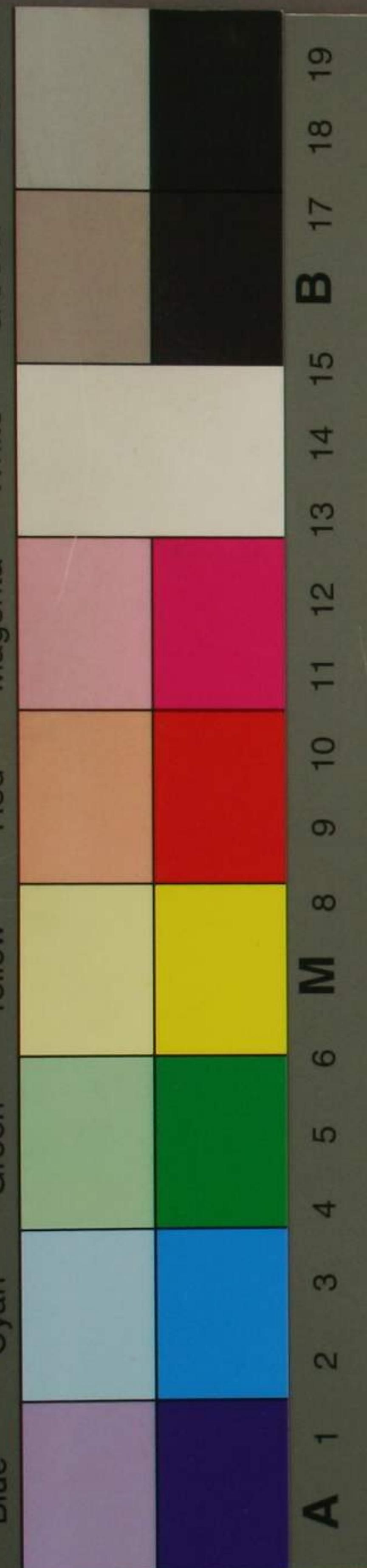
KODAK

LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Colorimetric



於 179
2

俊賞傳都鳴物語卷之二

東都

田亭馬琴編次

第三套

抱沓留遷

解を離

牛若鳩前の事

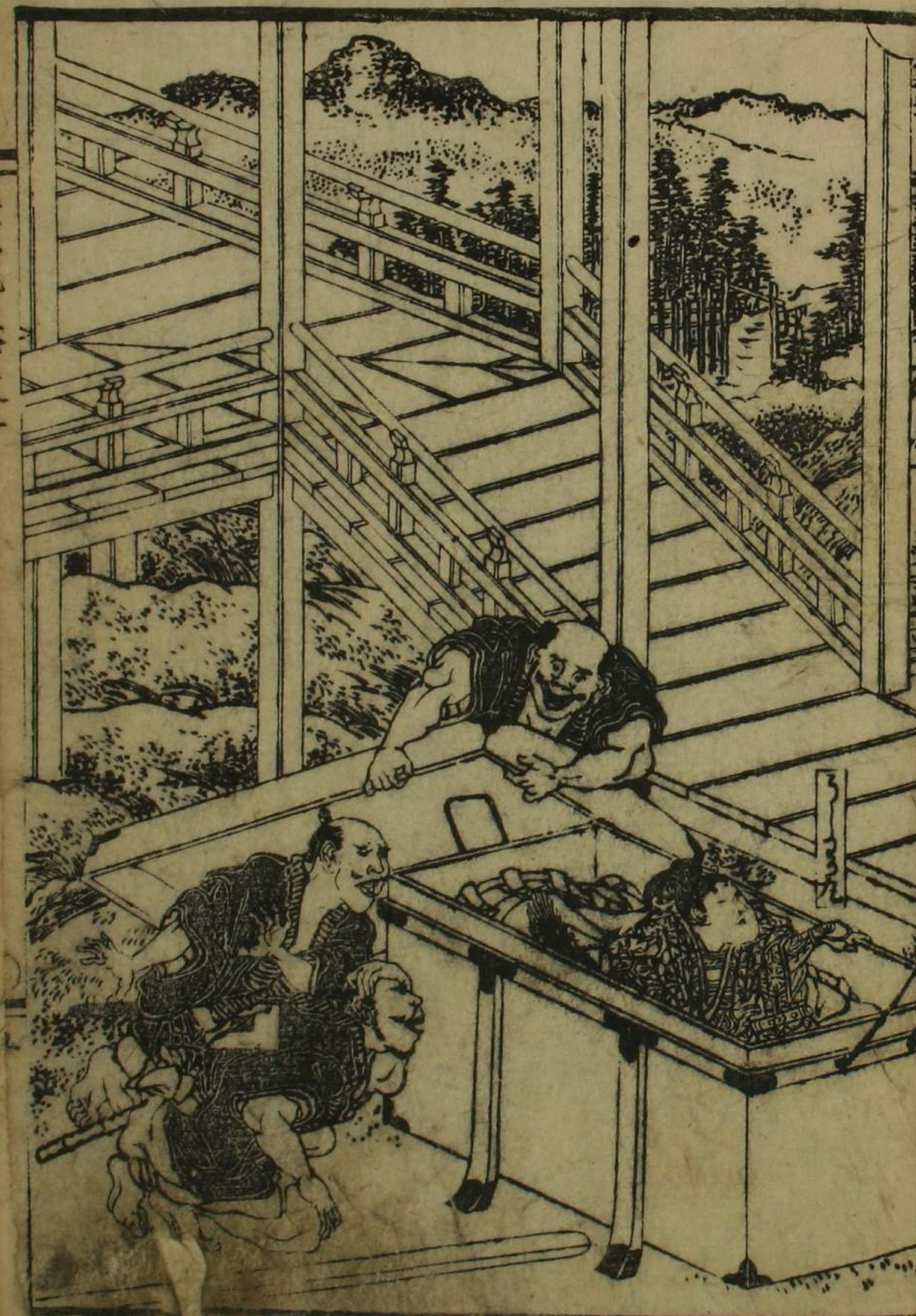
却説相國入道清盛。如意山中の異変。西八條へ引く
さる。縛の爲体。先づくつてテクバ。卒志一門の麻酔。因心顔。所感の
侍。さればとさり。もと。三條河原より。黒谷のあへ馳ち。人
馬。駆け。うんどり。ひき。も。あれども縛既に累々あいさしたる
程も。うけ。せ。羊。相國入道の車を守護。遂。引。之。ド。羊。ハ
き。山中を狩。る。餘類の癖者。や。龍房。と。部。し。と。馬。よ
鹿猿の外。え。眼。よ。や。る。り。め。も。く。と。樵夫。只。一人。よ。雅波妹尾。ま
る。十。立。人の。兵。を。う。一。み。ひ。つ。と。夢。以。不覺。の。あり。と。彼。の。奴。

定原家の殘黨をどよことあらめと。とあして正親の首巒壇の中
をもて出。是彼又えんじらるよ。その中。平治の役より朝都をおち
とた。降人よゆる下司めりたり。この首をえく。法然と渡河南
はる。源家所從の兵士。藤田ニ昂正清が子。登門にち郎正親
と並れ。よりのべ僕原へ正清が家隸なり。正清待賀門の敗軍小
義朝臣は寝ひそ。尾張路へ没落す。ころ。この正親へ十五六歳レ
りを。近づき所縁のくよ残りいたる。正親のう
だぞ。且目尻よ黒す。是紛うゞむの人のふみ。抑正親幼
稚うゞ。臂力入よ勝と好んで相撲柔術の勝負を試す。その右エ
ゆく童す。大人とくども傍ぐるいばえす。かくて十三四歳及び
て。竹節を折。鹿角を擘く。その左は
も。年長のくち。口ひやくもと。父正清も舌を振ひひだされば。モ
ちがひや。とまく千引の石を。も鞠きんど傳そと。被處の高峯こう投下しこうされ。
あれども相國をば。神も衛佛も助ゆへう。被石ごと脱れゆ。
ひ運やでてく。生をるれと一五二十を物ぐれバ衆皆笑て。まこと
清ヶよそくり。り難波妹尾が命を落とすわざうせばこの癖者
をと。そくもん宴に入道殿へ。おれ康黨をやくした
まこと。只管と稱嘆し。おとく立つて。綠由をすうせり。清益
安もある。眉を聟。そく正親一個の所なつて。べく。今部よも
頼政行綱あり。土佐コノ冠者希義あり。伊豆ツ兵衛佐頼朝あり。義
馬又伊那王あり。まことに源氏の家中を。努力。油断せば。と仰せ
て。正親が首を三條河原に梶にせ。おびく。奉入を。室寺鑿定院

子をひへ食ひつる。案下某生再説俊寛僧都へ。その日妻子をねて鹿
谷の山莊コ赴く。平相國如意の龍見コ出立ひとく。里人ホ罵あ
ひく。えまうぐ。御道を引ちて。北白河す。山中越又指りて。而。
桃谷石野戸の山間を経て。ゆき山莊コ到りぬ。あくる。蝶王。今奴
奴隸コ抱擔し。先づまづ。歩く。長櫃の木さじしき。あく。詐
主の俊寛よりくとまうせば。俊寛は多く。彼ホ相國の龍アを志す
が。如意越を登り來く。途々抑鬱せられ。其の外コ迷岸す。あ
ら。と。欲事コ解る。奴隸の常もうち捨ておけじ。とりてその言語のきど
り。ぬ。如意山のと驛しく。圓広の音響。御音入。金声遙コ聞
え。主役耳を側つ。これを怪。人物熟。え卒。縛の容
をうそくあれとく。岩尾山のうえ遣へ。且くして。そのへまうゆ
て。まうゆ。僕如意山と岩尾山の間。薪椎の翁より。立つ
ご。縛の越を聞よ。翁答。志賀の樵夫。縛門とうゆ。のりの。平
相國を粗暴さんとく。如意山の巔。磐石を投懸立地。牛も
車もうち碎れ。相國のやうりやとく。副車。衆もひ
うが。躬。馬。恙。彼縛門。脱る。道あく。駿の兵と血戰。妹尾
難波と。やうん。六波羅武士と相撲。而。懼のほとよ。仰れ。す。
まくかの縛門。原家の兵士藤田正清が。仰る。万夫不當の剛者
き。と。ち。り。め。ゆ。と。た。う。し。福。よ。も。草。人の。躲居。と。み。や。と。と。駿の
武士。貝殻を鳴らし。岡声を揚。狩。さ。く。ぐ。よ。く。な。され。が。翁。も。物。の。妻
ト。く。て。け。の。徒。よ。取。く。く。い。し。籠。の。く。く。よ。わ。り。も。い。し。捕。ら。し。く。
ら。ひ。ち。や。り。ね。濡。衣。可。惜。命。と。う。あ。う。び。れ。と。ひ。果。て。足。ぐ。

と。ひ。く。と。う。り。め。ゆ。と。た。う。し。福。よ。も。草。人の。躲居。と。み。や。と。と。駿の
武士。貝殻を鳴らし。岡声を揚。狩。さ。く。ぐ。よ。く。な。され。が。翁。も。物。の。妻
ト。く。て。け。の。徒。よ。取。く。く。い。し。籠。の。く。く。よ。わ。り。も。い。し。捕。ら。し。く。
ら。ひ。ち。や。り。ね。濡。衣。可。惜。命。と。う。あ。う。び。れ。と。ひ。果。て。足。ぐ。

ユ列れりしき。膳^{アガ}アテセキ^{アタシ}。トテモラゲ^{アタシ}。物^{アタシ}。され。俊寛^{ヒカル}、
ト幸意^{アガ}。法師^{ハサシ}天窗^{アカウ}を搔^{アハス}。嗚呼彼^{アタシ}證門^{アカウ}と^{アタシ}。奢海^{シカイ}
ムが勇^{アハス}。志^{アシカニ}。年^{アツカニ}。と^{アタシ}。年^{アツカニ}。そ^{アタシ}う^{アタシ}。され。尚彼^{アタシ}
巖^{アハス}。打^{アハス}。醯^{アハス}。と^{アタシ}。成親卿^{アシキヨ}の宿望^{アタシ}。房^{アタシ}。と^{アタシ}。果^{アハス}
ゆ^{アハス}。よ^{アハス}。も^{アハス}。住^{アハス}。と^{アタシ}。人の命運^{アタシ}。意^{アタシ}。中^{アタシ}。嘆嘆^{アハス}
して。あはるのうへんを向^{アハス}。と^{アタシ}。も^{アハス}。折^{アハス}。長樋^{アハス}。扛^{アハス}。擔^{アハス}。奴隸^{アハス}。
顛^{アハス}。のき^{アハス}。夏山^{アハス}の梢^{アハス}。青^{アハス}。青^{アハス}。や^{アハス}。アメ^{アハス}。俊寛^{ヒカル}
端^{アハス}。ら^{アハス}。出^{アハス}。と^{アタシ}。樋^{アハス}。堵^{アハス}。堵^{アハス}。戸^{アハス}。内^{アハス}。江^{アハス}。流^{アハス}。
を窺^{アハス}。蝶^{アハス}。王^{アハス}。待^{アハス}。近^{アハス}。中^{アハス}。海^{アハス}。中^{アハス}。喧^{アハス}。抑^{アハス}。苗^{アハス}
す。平相圓^{アハス}。の瀧^{アハス}。え。よ。生^{アハス}。あ。ひ。ゆ。敵^{アハス}。う。ぞ。相圓^{アハス}。を。攀^{アハス}。ん。う。る。
癖^{アハス}。有^{アハス}。併^{アハス}。面^{アハス}。あ。う。る。ら。と。ひ。う。り。く。い。ん。す。も。と。と。あ。る。
え。松^{アハス}。の前^{アハス}。す。律^{アハス}。の容^{アハス}。を。う。ゆ。ゆ。と。ひ。り。と。う。れ。が。萬^{アハス}。の前^{アハス}。德^{アハス}。壽^{アハス}。
ともも。安良子^{アハス}。を。わ。く。狹障^{アハス}。ま。の。あ。う。く。や。く。と。お。ぬ。隸^{アハス}。小。り。ん。
不^{アハス}。す。く。よ。件^{アハス}。の。め。ど。も。り。流^{アハス}。行^{アハス}。う。れ。せ。ひ。さ。と。く。も。や。縁^{アハス}。由^{アハス}
は。す。と。や。か。い。く。ん。ち。よ。か。う。ら。が。如。此。く。う。り。圖^{アハス}。様^{アハス}。く。う。そ。い。ふ。から
む。す。物^{アハス}。も。と。俊寛^{ヒカル}。つ^{アハス}。と。す。て。蝶^{アハス}。王^{アハス}。残^{アハス}。う。す。彼^{アハス}。ほ。り。ち。と。く
ち。ア。も。る。す。神^{アハス}。妙^{アハス}。舊^{アハス}。の。处^{アハス}。よ。躲^{アハス}。居^{アハス}。武^{アハス}。士^{アハス}。よ。怪^{アハス}。め。られ
き。か。り。い。と。く。と。も。頑^{アハス}。よ。放^{アハス}。と。べ。め。く。と。う。く。ば。そ。の。崇^{アハス}。ま。く。く。よ。保^{アハス}
く。と。よ。び。り。く。わ。る。び。り。よ。臆^{アハス}。病^{アハス}。の。も。や。ろ。時^{アハス}。よ。と。物^{アハス}。の。用^{アハス}。
く。れ。と。うち。笑^{アハス}。と。く。櫻^{アハス}。を。宍^{アハス}。と。調^{アハス}。度^{アハス}。を。と。仰^{アハス}。小。蝶^{アハス}。王^{アハス}
を。か。て。長^{アハス}。棍^{アハス}。を。縁^{アハス}。頬^{アハス}。よ。ね。と。そ。う。と。せ。し。く。初^{アハス}。の。棒^{アハス}。を。引^{アハス}。抜^{アハス}。す。と。ら
益^{アハス}。を。反^{アハス}。退^{アハス}。ね。が。お。も。か。く。ど。美^{アハス}。安^{アハス}。年^{アハス}。内^{アハス}。う。内^{アハス}。と。跳^{アハス}。ぬ。縁^{アハス}。の。よ。よ



を立たうり。され牛若さう。その打拾。鐵葉黒。薄化粧。唐織
特衣。精好の大口を張ら。虎のほの尻鞆をく。金柳のち
を佩。意氣揚。くう。些とも鹽がど。いと薦闌。艶あるらを。
京上薦。よもじら。優れど。眼中瞬くと。清れと秋水のよ。懸
を含み。冷視る顔色。威あれど。猛。神。人。とぞ。風
情あく。俊寛主従。あれひつよ。呆。果。送。より不をあく。
當。蝶王の奴隸。水。財。海。遊。夏。よもじら。延滞。理。ゆ。仰。うれ
ど。仰。の。た。よ。の。女。年。を。昇。り。も。れる。緣故。を。す。し。く。さ。く。も
怪。有。う。白。徒。ぐ。わ。う。と。苦。切。く。窮。られ。奴隸。水。と。當。或。心。向。又
あ。う。れ。く。び。と。く。言。語。も。う。改。を。つ。た。才。と。陳。り。く。す。告。们。全
く。櫻。の。中。よ。人。の。口。を。う。く。と。く。先。支。の。武。士。追。れ。一。と。櫻
を。昇。り。と。退。く。よ。連。う。木。の。下。よ。捨。り。た。櫻。の。背。よ。躰。ひ。や。人。音
静。す。よ。う。う。う。舊。の。處。へ。身。と。不。よ。誰。と。ん。ち。く。ど。櫻。よ。ま。ま。る。擔
棒。を。引。抜。く。ひ。 グ。び。忙。く。れ。ば。夫。庭。す。持。を。こ。う。入。れ。つ。と。よ。扛
り。く。あ。る。し。今。ち。て。と。く。が。女。年。が。櫻。の。内。へ。潜。じ。入。る。と。持。を。引。
抜。ひ。を。ひ。つ。む。じ。し。と。誠。度。され。彼。人。よ。同。あ。つ。は。縛。もの。へ。く。分。ぬ
よ。ひ。う。ん。ひと。回答。り。俊。寛。され。を。ば。る。と。う。じ。一。事。あ。く。ひ。く。丘。登
く。女。年。よ。財。人。向。よ。簾。田。正。清。が。見。る。燈。門。行。づ。平。相。圓。を。尋。ん
う。う。う。卒。意。を。え。と。く。ど。忽。心。休。ま。く。う。と。ぞ。た。う。う。よ。女。年。ど。め
提。よ。駄。あ。の。も。彼。山。あ。る。よ。時。刻。も。か。う。だ。燈。門。を。ひ。く。ひ。く。本。人
よ。究。め。う。察。す。う。と。く。う。原。家。の。川。曹。匈。よ。う。と。在。そ。ぎ。れ。か。う。う。
法。勝。寺。の。執。行。俊。寛。し。名。告。ゆ。六。波。羅。へ。お。こ。せ。れ。と。入。道。と。あ。心。感。

又預りん。いよぎと結向。半若莞尔とうち笑ふ。推察よ津と
の長樋の内よ躲どく。あぐ敵の英氣を擧てろ。再び卒意を遂
か。卒意數百の兵士は肩ともりたりぬりのを。生法師の分隨す。
搦捕んとく舌長。しぐれの山莊の氣運をうかひる。殺氣内満
事と謀る内室す。執行も又隱謀の企あり。ひと所と室へ。
俊寛すらゆど大よ聲うた。且その聰察睿智よ感伏し。にと隣居
うじが忽地呵くとうち笑ひ。少年その身の縛を脱んや。根々云
みひあひ。それ見出家ら。いと隠謀の企あり。前のどうじ
き。一時の戦との。鴉戸も窮鳥を捕らば。猛虎の伏肉を食ひ
む。慈悲の如末の卒願す。や頼家の内曹司よ在するとも。あるを
うりも恩意す。よあひ。すは定め。すえすわくとも、べきすりと。
うりと端近て蠍玉客房へ案内くる。官待やあくせも。どうの意を
浴びてはれど蠍玉ハナシ。淑穂ホエ。長樋を背脱のくと昇へば。
廳に牛若を説けつ。廊をうち統てやく。ねの前ひ階の前
ともよ。外の隙うちこれを目送す。ともも鷹團なる少年。女子
すともうなき。其兎りてとひだよ。がる臂をともひく。ほ
う。さそり。あらわす。といひき。階の前をえり。おのあ
の顔うち赦め。母の後方よ立うれつ。かくて俊寛の安良子
仰る。准備の偏提をひき。さゞめ。孟を举て。内曹司よもひ
四表八表の緒の序。扇笏よともてやき。わく倉來ある申條
よれど君の面影のよく。朝乾臣よ宵子。在もれば被大典。廄
門の送腹子。鞍馬の牛若たうもんとく精一。俊寛安一。

さうを象徴す。眞し。瑜伽三密の行者とすとひども。村上源氏の嫡
流す。祖父稚俊卿のひざま。猛烈うつるうり。せの人のちうとろて。
頼へくちひかへ。身よかえても。舍藏進らとべ。と信してそり。
その言語ぬき。ばんえーう。牛若とほれよるのふみ。母の仰よ
う。義朝が季ます。牛若とほれよるのふみ。母の仰よ
う。七方う。鞍馬よ登山し。東光坊の才すとさり。今年の
春の婆那王とぞりふう。もううよ清盛入道へ。與よ天を載づ
誓う。わざ。りともーく怨を報ひ。又祖の孝親よ供んと。夙よ夜
心ひ忘る。隙もあく。近日鞍馬を竊出。奥州へ。べく。その用
意ひつゝ。單身よそひ道のほどり便う。ねば。如意山中よ
うけいへ。うの外よ月を過す。うべ。舊代の窮隸。燈門
左席正親といひ。のよ名告ゆ。如意の禮見を幸よ。清盛を祖
父んとちうよ。そのすめ。正親をまへ討せ。辛じく穀の敵を
殺脱。す再生の恩恵を稟る。過せつう。契であう。ク。源家
すやる舊識す。ちく。うちをかく懇切よ。せんゆい。ひとうろ
ねね。と回答あへば。後寛満圓よ笑を含み。酒をかん。穀を添よ
う。傷よ。行ひつ。蛟王安良子を退し。さて。腰をそめ。声を落
かん。曹司愚僧をり。舊識す。ちく。と。室ひそづ。又和寺の
寛雅法印と。君が祖父為義朝臣。師擅の笑をひひ。死す。お
とよれかくも。あれ。もくと。奥州へ。かく。ゆくよ。はづ。の山莊
在。家を隔へ。ねば。世を潛がよ。究竟のじゆう。じゆう。よ。

だよ。馬心僧は一人の女見あり。名を鶴乃あと呼びて。十四歳より
ね。乱玉の質あく。殊雪の才えーとりへども。ふうーく続書の婢
えとべー。梵女聞へるを嫌ひあへども。君が汝よ其の帚を執
らし。さゞく潘揚の奴を締びさん。聽かへりとひよ牛若回答に
すへす。縊襟の中うり父を喪ひえーく朝敵の餘類よ保てて。
落魄するのみ身みそ妻を擇はれう。あらうを僧都最愛の意
みをもとく。妻ぞうれんすらようた僕伴すう。そんりへ一日の安
居をもとく。僧都親子を係累ともとむつわく。息を仇
り。殺へし。そり平家をうち滅さんと。どひきらわるその日よ
定命運を天よ任せ一处不仕の牛若かりて婚縁を結んで。
らひ口ひちわくどりと准辭あへば。俊寛想ひ。いひのり。
脚も妨う。近曾亞相成親卿。じと企あふとありそ。同意の黨
をうへ山莊よ會合りと。俊寛年少。成親卿と師擅の勢のる
まう。の隠謀よやうりれ。肺肝を摧とへども。せよ漏えひ
を憚そく。妻すへるを。腹ひの家隸。龜王。蟻王。ホタル。ひづき
あくらべ。是私の宿意のとよあく。後向河の上白王も内に脚同
意。夫萬卒へねやす。一将へねやす。曹司。いと父祖の怨
を報んとく。成親卿を輔る。平家を一時よ住ぐ。糾略をめ
ぐしゆへ。愚僧密よ彼卿よおじしそん。重く用じゆ
べ。天運循環ちく。平氏のよぐ。首を授ふべ。忠孝西す
全くあふよわゆどや。どひもと。臂がりうる銀の瓶よと
もと廻る際よ押舟にわら舟を捨てうる。牛若られを高へ

仰寔ふうりやうり。そも同意の輩ひ誰くうりや。と同あへ俊寔右より
の指を傳め。うらは卿よん。成親卿の嫡男。丹波守お成経。近江守
道蓮阿。武士よん。立田藏人行綱。うちを今度の大わ軍と。その外
平判官康頼を陶うへ道西光うんと北面西面の輩よりとん毛舉
よ達ゆうど。もみる金石の志傳うへゆ。とりとそとくうりよ告よけよと。牛
若す果く嘆息くさんくのまくと。行綱は源氏の支流
よ他りうく。その性危急うく謀寡く。それを大ねと囁かう。不
覺の至り。且康頼の涇薄うして多能うる。西光が才あくと時を
ねぐる。所謂餐上の蠅井底の蛙も。加之嘗世の亂波を以て
うよ縁起を察むるよ。成親卿がく近衛の大わよ呈を被ゆつも。
うよ稱を送恨する。清盡一家を滅べし。本意を
遙くうかがうべ。ゆくく世のわ。君のなよもくと。貪禁を名の
軍を起へ。平家の鋒又向ん。卵を石をすがどく。彼精衛とり
鳥の木石を衆う。大海を埋んとう。遙く觸き充ちう。も
うれ思うる不朽うふや。人安づれが天よ勝。天足うと全勝う。
申包胥が金言う。平家憲よ高位よ辱う。天よを放て。跡従委
し。され人争へて天よ勝めの。夏うくく起とぞ。成親卿の不景
き論づるよ足く。執行今との應謀よ誓て。元灰の輩と勝
を組額を合とぞ。うを耽じあふとも。勞て功臣。速
よ召ひとぞ。うりよ。と成敗掌を握がふ。明角よ禁めき。ひ敵
寛額よ感嘆。大息吻く。うりよ。曹司の殘論。寔ふあり
う。愚僧もうれを名ひざるよ。あくねど。うよどん。う弱よとさ。

年親卿又蹇終の惠を稟へうり。水火も辞せず契トクハ。奴も反も
うべど。今度の隠謀よふぞ一々のを。今まにとひ難れど。縛る
うべからむよんの。曹司。リコが橋梁の信を譲りあつて。女観
が縁を羨りて。鷹丸の原をうちよ。天の生てる大船軍。君が右
よ出たり。おうた見えねば。終よ平氣を滅して。會稽の恥を雪めに
すらん。すが眼を東門よ掛らうと。今面あくろうがふ。やう大ねよ
縁を締ぐ。女児が久後りへがまく。縱俊寛が法師首へじきふとも。妻
や俊児もりもくをうづく。ひつゝくちくべし。おびて領繕あれう。と流を
流りそくに覗ぬ。よのとて蟻王安良よ。紙障のとうく。又竊は
し。ちどめと俊寛が成親との隠謀よふぞをうと。呆毛果。夫婦面
をゆりつ。うち嘆きと。肉よのう。そくもくねりきらして。殺を添。助
を執る。俊寛が女良よ。仰せ。松のあと。ううの子じもが寝び来る
ら。こそ牛若丸よ財へて。彼の莉婦松のあ。それううが児童の前
せぐれども。ま
俊児總毒丸よ。總毒丸しあへ。といふ。牛若の席を震す。お
ひりやけね歎詠を説ひ字えゆへ。俊寛又松の字みよ射ひの君の
左馬改義朝取戻の末子よ。牛若丸と嘗れ。鞍する山よ。生育な
へるが。此度猛よとひよら。陸奥。りくをくとく。あらよか。年四の
児。そくも。お
寝がゆふとあらむ。されば。餘ひも。跡のあら。とぞ。喜へゆべけ
れ。とくら食笑と。字えゆく。されば。鶴のあひ恥。げよす。俯。眞昧。コ
欵をうらりきよ。らしくほくと。同情あり。松の前。もうち。嘆て。那齋
で。年十四よ。けれども。とがくとく。ひく。道の上。軒を替ふとく



おとこ
女危を摸る
わんきを摸る
俊寛娘日縁
を露ひ

をもと。親子が面目うへやる。曹司陸奥へアリ。あひの比より
ゆき。ありまさん。うね東海へ猿さるやう。さすがによせらる。
うがわが伝そとくよ似てやれども。執行の平ゑるも縛らども。憑いた
人よげれば。うきいにじし。と信すよりい慰め。官待もふよほ傍
う。蟬王安良すも。うに督君を招みひて。いと愛すと祝。まくらを
牛若いはしきと。縁頬よ立。簷わよ近た青梅のなづ。うつ一枝を
小を力を抜ててと伐。それを携へ。舊の如へ立帰す。生夫婦が簡よ
さうあた。青梅よ酒を煮て。英雄を論じたる。震且三國の故変き
どひ物。今すれ劉備あたすもあねど。荊楚よ手をあせ。是う
をびて。妻をうますべ類ひ。情原よあくび。辟言ばとの梅の柄のど
とく。翁よあくびれ伐とをひど。媒すくちん娶らざる。夫婦の人の大
牛若の舍のう。用ひそろひて夜もじよ。散も果もび結う。妹夫の
縁いもそのやひす。みはをすくにあら。これ奥州へ赴たる。三
年かねよぬゆりあらべ。ほどの時をねむへと。楠よ辟言。一名の
椎枝り殊よきあわ。俊寛ゆく感嘆し。大丈夫の一言。馳ひと
ひども追ひだ。室の不偽うへ。二年の初論五年も。十年の後も
あらべたが。紀念の一種を送へらして。女児が心を慰る。うたとも
うかへ。と呂管よ乞求へ。牛若丸已て死り。墨牛の年のつま
うたを揃へ。かくる扇をあひした。
うちも香も春を契らる梅がねよ縛づ。宴ももくとあらぐれ
と書とぶ。梅がねよ縛づ。うげとけ。俊寛うちうへけ。

吟じ果て方よ歎びられを松の前よ遍とて。松の前もせよ喜
われたり氣きりまく。鶴々鶴のあよとくをさう。時よ俊寛坐を。
そよびう袋戸の内より。蒲の轍よ納もうり。笛一管をとうひじ。
うよくと右手よ棒りしる。牛若丸よやうとすう。この笛は向院珠よ
よん童愛おしく。小枝と号あひうそ。が祖父京極の亞相稚俊
かゆう。今俊寛よ至るうち。二代相傳の重宝されど縛のうち
うばへまよ。曹司よ進らせべ。君うそぞらく雄ようえせん。小枝の
笛を梅の枝の詠あよ換る背引出。子代を壽くせよ笛。とりふ
家も名絃自性納めへ。とくにうそ。牛若丸れを。左右のよよめ
ア押戴た柯亭蝉折よもあらざる。右院恩賜の名笛をあつ
る。珍びうれよやうめりのう。とや四も西よ傾いたね。夜よ紛れと
陸奥へ旅。宴よもろくする枕をひく。射ゆよ堪ぢ
とちよ。俊寛殿よいへ笛りべ。君奥州へひくみだる。よろしく
保保よ附棺して進らをうん。三條の商人よ。吉次信隆とよ豪
家ゆ。化海年よ。陸奥へひる金商人されば秀衡が館へ伺候を
とす。うちれが年未素内の者う。且よ。幸よ。信隆と師擅
の契ゆ。まるようう。まのへ彼男京極へ指ゆ。あそと例の
ちまき。東ひりりくもよもとく。身の暇をすうさんかよ奉れよ。とのむ。
ありふ。彼が起れひね立のね。うそ。それ今一言をよそく
憑をうそ。頼り頼りべ。と薛詳よ寝あし。うそ。蟻よさらす。
かうら。びやく。曹司のもん供へ。二様ふむけた。吉次信隆よ對面
し。箇様うそよひへ。とく立帰を。返命をあそよ。うそ

今宵の京極へゆく。はをもづれど。とくそめらるる
さ。緯既に整ひぬ。かくて牛若はくる。主夫婦の好意を候
す。鶴の前徳壽を別を告。その夕れよ。蟻王は御道さへ
吉次が宿駄へ起たゆべ。俊寛親子別を惜。彼ゆよりつに
あひうが。吉次が下向よ能て音耗せゆ。とらのむすよえむらね。
かくよ代の娘の憂きよまよ。曹司も再會を契。松明ありも
と蟻王が後ろ跟く。ゆきよへ。俊寛は諸戸のほくよ立也。す。
木がくくゆじ目送れど。躬とももくな見の水よ。小瓶をほどく木下闇。
松明の光も山路の露よ。滅々迹きよりよ。

第四套

抱薪放燃と。細を脱と。僧都が妻子の事

成。奴隸雜と聞がる人。答く。成親卿と密言のりん使ゆ。此執行
ことよと。夜の寂莫。山莊の母屋の向も遠く。俊寛もよも
声をきりまと。とひく。連れて。安良子よ紙燭を秉じ。つ。
生辰の両戸深あけよ。端らくよもじして一挺の轎を門の内。轎夫
鞋奴立せ。先よ簾火をよもじして。一挺の轎を門の内。轎夫
生侍。縁のほくよあくよ。砌の板よ木をひた。俊寛よもじをす。う。
主君成親。今夕戦よ會合をやう。不。僧都京極よもじ。の。山
莊よこうちあり。夜中うれども。ひん迎くよまよ。平判官中の
さんよんじよ。よへておひりん。寧よもれ。轎わざり。呂糸がすく
さんゆりよどり。俊寛すく眉根を合せ。亞相のひ敵。ふそ。今夜會合
あひうが。すりながしよ。とのれよで迎の人をあひよる。とひく。

休達曰く休足也よ。とりひそめぬよ立ちもひ。松の前よ辯の轡をば
えちし。袴衣ふる縫ひつせんともちを。松の崩れ失の袖を引苗。小夜と
い。山路といふ。彼方の人のまよそろひ。ぼつぼつと。わゆく蟻王がす。
ぬりやうどくも。些方かうり。一人二人の従者にねこへんかうり。いとすん
ぬまくうらまく。すくすくよ。がくぐく。ともやまひらへ今宵のやう
かうむあれり。と蛇がよきそる妹夫の列れ。これを限てとよくねども。
鶴のあも安良子も。言語を嗣ぐ。齒より俊寛政をうち掉て。まご
まごともやりとべた。四十よみをうなづく。がくじ。ふよ器ーと仰りおなれりの
を。迎の轎さへよみされーを。もくさんへ不礼も。山莊の夜の衛も。いと
忍よだげ。綻物の用よまざる牧原もと。入もまく残ーかくんこそ。
がくのあくろべたり。蟻王がくくうさび。どみうーをりひきをよ。安良子の日未
雄。いりのとどひつゝよ。すくとよ。齒もひらうよ。其處故まぜ。と
真縫さ。白衣の袖をうた拂ひへつと。おとづれ頬ふ至を違へと。擧あする轎の
と。戸を引角る。生待す會釈ー。と。内りと乗。身ひらり。肩へれ丸く。よ
昇る。よく。まうねよ蟻王。三條ある吉次がお。牛若丸を送と。け。西
方寺山の麓をゆく。まれひ。せ。一日の月魄。山の挾よさ。早て山社鶴の
鳴音よ深く。時一もあれ向ひ。人穀。薪火をとくつれ。誰よひ。う
ぞ。青綱被る轎。お家。山路挾ーとひそめ。蟻王のうれを
え。あるを悲ア。ひうき。罪を仰至りん。ひりへば地獄も極楽か。ひ。よ
うりうり。ひうり。ひうち。瓦彈ーと。打ち。ひ。たえ。すそれとえとめて。や。轎
の内。とかく。くじ。す。蟻王。と。ほく。ひ。す。べく。も。か。の。俊寛。あ。う
え。う。も。ひ。う。と。胸。う。ら。ま。れ。走。く。く。く。ん。と。する。蟻王を。狼藉する。と。突

西方寺山火
蜘蛛王

假寃子



退る。脇添の武士声をあくと。六波羅へ下さる囚人法勝寺の執行と
ありと。すうとくろとひをひど。物とも遠奴を脱へるせよ。と刀の鞘ア
まをやれば。蟻王ナア此とも臆だん。仰うりぬりぬへね。うれども。
俊寛行すの罪アヤ。妻アムシナナリ。りうねを。纏はる籠あると。ア
だんじゆくら。アミト。俊寛行すの罪アヤ。妻アムシナナリ。りうねを。纏はる籠あると。ア
従者の中言アセ。濡衣を被せらる。とアタ。といひてわいと件の武士蟻
王を信とす。うら漫す。罪アタタリと練ひて欲念度平親を
の謀叛エス。世を乱さんと計校す。俊寛。康頼。蓮阿。西光。もんとがみ
の内侍を告ぐ。うらのめりようと。禁獄からむと。わくの難はニ昂
経遠。オニ郎。経房。入道相圓の仰を稟。京極の宿处へもと向つよ。
俊寛の妻アムシナナリ。鹿谷の山莊よりとすえふ。と。やうな
氣晴し。遠電する。と。遠慮をめがし。車親との使者と稱
し。駕引出。主を喪ふ。瘦大ども。妨ぢ。國罪アムシナ不思ひ
し。駕引出。主を喪ふ。罵アワ。蟻王アムシナ。と。を定め。寔は
罪科脱。アムシナ。但主の禁獄を。えつ。阿容と。立列り。
家隸アムシナ。法師の所從も。を。カ一腰。准傍つ。アムシナ。試もあ。と
いひ。果を。隣故ベクミ。塞。難波ニ郎。大。怒。そ。癡者。ご。搦搏
ラ。と。羅兵。ご。手。料。と。う。巻。アムシナ。その。局。氣。と。慣れりん
た。ち。も。こ。み。て。わ。も。わ。ら。と。俊寛の橋の物見。と。の。景迹。を。え。と
は。わ。も。な。蟻王。俊寛。忽の。舉動。と。主を。救。か。も。あ。も。と。ま
設。を。よ。これ。等。と。窮。を。抱。く。大。を。救。ひ。湯。を。り。と。沸。を。と。ひ。り。と
と。ある。而。が。と。や。う。と。よ。一。且。こ。と。脱。く。と。も。キ。死。の。威。光。り。と。搬
され。う。身。を。も。宿。わ。め。う。ぶ。ぐ。と。ほ。り。右。義。を。も。り。と。松。の。前。と

すどもらが先途をとどり。せよとく足弱ふが杖ともさ
うぐう。それも着てくらべし。狼狽うる。と。言の記よ迎られて。蟻王ハ囂と
う。勇氣も撫み撲せと。男達も泣き。難波三郎は。観る
と。冷笑ひ。やう面後よやづらひ。可惜時刻を。うしなう。へと。の
さらも待てじあくろん。のみ道塞で。と丁と蹴る。主をえす。よ雜兵本
も。儒流にて。蟻王が。肩尖項の嫌ひ。數回蹴す。叫ゆ
細轎の後方先方よまつどん。列を正して。去る。かく。難波三郎
経房は。口と首と。物熟する兵。三三人。謀を密語。途うそと
えよ。蟻王が。やくばた方を。窺す。とあくびして。すすりよ音を起す。
蹴られ。つか身の疼く。主の難儀よ胸を痛め。仰を憚す。机
もれ。跡目よつと。六は羅。えわれよりん供とぶたり。ゆ
まよ。とくろひとくよあたよ。おもえあくびゆ。かく。片田の雁み
らを。奉越く。ひた風情。ふく。よどひ定め。うち兵ひ。裳衣
き。あがむ。そぞく。きる。ふ。わ鹿告へと。走ゆ。夏の夜。されば短くて。遠寺の鐘の歎向が。る。足三よ
き。よき。ふく。よ。係る寂感の声。とあくねど。案の前。い更。ゆく。ゆく
ゆ。お福く。もど。萬のあきろとも。安良子。原氏を詠して。蟻王が。ゆ
き。ゆ。今。く。と。ゆ。う。移よ。蟻王。喘く。山莊。よき。う。着門。高す。よ
敵だよ。牢を。ほ。とき。う。入。荒。く。案の前。のあく。よ。表歩り。や
も。ゆ。ゆ。あく。う。れ。ゆ。傍。け。事。親々の。隠。算。よ。う。あ。ひ。ゆ。よ
い。緯。既。よ。歎。頭。難。は。経。房。付。も。と。う。け。ゆ。う。年。秋。令。の。使。者。と。孫。そ
と。お。れ。よ。も。う。る。年。士。三。四。人。是。

をとく。卷六。波羅^{ハラ}。とく。わざく。去まぬ。某もくども。西方寺山のほとく。
まく。りあひすり。棄ひく。とす。と刀の鞘よもをむけ。が。奴此の
の仰黙止ぐ。とく。ゆりともあり。狐疑^{クニギ}。入道相囲。再て討す。を向け
られ。あが。とく。晩れ。あらん。天の明る。圓よ便宜の地へ。養へ。安
良よも狼狽。嘗て。おげ。下括の紹帝^{シオテイ}。はく。まわせ。といひ果て又
忙しく。納戸のうへ。まづ。路限の准傍^{スンボウ}。す。す。案の前萬の前^{マハ}。
う。そもりよと泣叫び。ひとせんまべうりしき。假寐^{カミ}。う。う。徳あるも。
夏と。まづ。強^{カタ}。たえ。只うんと。塗悉^{ツシキ}。て。因の袂^{スリ}。と。携^{シル}。着^{スル}。理^{スル}。
安良よも愈^{カタマリ}。一夏の夜の雨。ひのれが。床^{シズ}。と。笠^{ハット}
だ。と。ひも。やく。ね。行裝^{キョウザウ}。ひを。う。そり。そり。と。つ。が。れる。外^{スモリ}。う。き。ける。當
下。蟻王^{アリノタガ}。納戸^{ノタガ}。う。う。お。と。と。安良子^{ヤキモニ}。ゆる。よたよ。人の。う。う。も。集
あぐら。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。
て。奴隸^{ヌリ}。ふ。あぐら。あ。信^{ヒム}。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。
と。考^{ヒム}。ひ。う。信^{ヒム}。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。
て。奴隸^{ヌリ}。ふ。あぐら。あ。信^{ヒム}。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。あぐら。あ。身^{ヒム}。
に。三國^{ミコト}。法^ハ。務^{スル}。寺^ノ。所^レ。領^{スル}。あ。う。れ。ば。人^モ。眼^ヲ。著^ス。せ。伏^ハ。潛^ハ。あ。ふ
よ。便^シ。と。行^ハ。へ。う。ん。伏^ハ。と。ぐ。と。そ。う。と。よ。む。あ。く。や。と。向^ハ。安良よ
あ。が。身^{ヒム}。あ。思^ハ。あ。と。あ。う。ん。入^ハ。よ。行^ハ。せ。を。潜^ハ。の。よ。深^シ。山^ノ。住^ム。あ。る。
あ。う。北^ノ。大悲^{ダヒ}。山^ノ。麓^ノ。天^ノ。素^ス。山^ノ。四^シ。郎^ノ。と。經^ハ。う。れ。世^ハ。う。ば。り
信^{ヒム}。あ。う。と。あ。う。ん。入^ハ。よ。行^ハ。せ。を。潜^ハ。の。よ。深^シ。山^ノ。住^ム。あ。る。
彼^ハ。身^{ヒム}。あ。わ。ら。を。あ。と。耳^ヲ。詰^ハ。う。ち。五^{メシ}。と。り。山^里。あ。る。鞍^ハ。馬^ノ。五^{メシ}
音^ハ。さ。ね。衆^ノ。入^ハ。の。う。ま。ん。つ。ん。月^ノ。新^ハ。よ。金^ノ。と。よ。け。と。主^ハ。徒^ハ。力^ハ。人^ハ。庭^ハ
内^ハ。と。を。し。も。う。れ。蟻^{アリ}。王^ノ。が。跡^ハ。自^ハ。よ。つ。と。身^{ヒム}。う。り。る。難^ハ。波^ハ。兵^ハ。二^ミ。人^ハ。樹^ハ



躰より跳上かのじよ。かのべーとおられりん。経房吾脩を跟うておれば。先う
らよ行とえく。稚とも謀叛人の後見徒毒丸。サ房女四も罪に服をと。
どく縛めを受ら。とゆふ。庭に立塞よしる。と。蟻王アリノミコトが走て
きまく撲ゆと投退。又組着を胸前拿し。戾アリする力量早技。弥アマ
う。又投きよ。向よ踏あ足あ。かくらをみりされとひられと力。又任
して踏あされば。安良アラすをよしよ。詫め。遠奴アリを殺さば。後日の始足腰
う。追アシ。けり。誘アシ。と。いそがせば。ひよと魚アシ足アシの山腹を西
と。先アヘ。徳喜アシキを脊負アシタケ。月アシ胸アシ。墨アシ。安良アラよ。安
く。身アシもかびアシ。左右アシ主アシの手アシ被アシ。ひよつり。も落アシて
く。答川アシカワのあや定められたへの往方アシカニと。ひふあるとを哀れすれ。

第五回

抱豕忘臭アシハシナガシ盟アシを渝アシて宇田竹綱アシタタケノコか事

今度外親卿の隠謀アシヒヨウ。怨アシ。又雲頭アシタケ。緣故アシタケをよらねば。宇田藏人
行綱アシタケが回忠アシタケ。彼行綱アシタケ。六孫王経基の嫡子。宇田滿仲の長
男。宇津守頼光アシタケ朝臣立代の後胤アシタケ。宇田源藏人頼鑑アシタケ。行鑑アシタケ。娘アシタケ
夫アシタケ。たる頭頼綱アシタケ。頼光アシタケの玄孫アシタケ。かれは源氏嫡アシタケ。名古家の子孫
あると。と。外親アシタケ。就中アシタケのアシタケと。おられて。を。アシタケの引出物
を。アシタケ。合戦アシタケの。アシタケ。アシタケ。仰アシタケ。と。取アシタケ。取アシタケ。と。その
歎アシタケ化アシタケ。異アシタケ。アシタケ。アシタケ。清盡入道アシタケ。如意の寵見アシタケ。わざ。證
門アシタケ。正家アシタケ。狼藉アシタケ。必定本入アシタケ。アシタケ。行綱アシタケが取アシタケ。取アシタケ。と。ひ
を。アシタケ。と。告アシタケ。人アシタケ。り。れ。行綱アシタケ。大。又。擊アシタケ。た。悔アシタケ。當アシタケ。因アシタケ。と。る。もの
も。アシタケ。入道相圓の宿所アシタケ。推參アシタケ。城親アシタケ。や。謀叛アシタケの。駿赤アシタケ
味同意の姓名アシタケ。ひちもろく。告アシタケ。し。と。よ。と。追從アシタケ。と。邊アシタケ。が

とよゆりじう。清監すて。眞跡した。凶惡を時を移すと成親卿父子。又
の黨を悉く搥捕し。西八條へ押籠した。後向行院を多く恨む
あり。不遜の奉勅ゆりじう。嫡子重監いく練る。縛す。縛す。
往す。不遜の奉勅ゆりじう。嫡子重監いく練る。縛す。縛す。
切す。事親父を備前國へ流しつれ。難波とりふを犯所と是む
ら。鶴岡ゆ期音心の體みと付た。難波ニ昂経遠が所領をひ
く。金身難波ニ昂経房。事親父を預す。傍あよ下向をもろ
ども清監の噴を終よ解ど。その年七月十日。難波経房うりた
うりて。事親父の首を刎。脳へ傍あ傍中の塚ある。列外とりふを送
捨す。それ當初清監の需よ無で。案の前を俊寛よ妻女
る。怨を報んと。ややこ苛く舉止る。すとえ本親卿の嫡
男丹波少輔事経平判官康頼法援寺の執事俊寛らの三入の薩摩は
硫黄嶋へ配流する。又外の黨も刑伐差ありて一入も漏さぬ。剝
皮田藏人行綱の事親父謀反の説を告訴と。がむ最初より一味同意
の等類。罪科脱とじと。安藝國へ配流され。行綱が今度
の為体。又武士の所行よあらむ。と瓦彈。憎がりのあらう。行綱家
業元年本親隠謀の説を清監入道。俊寛僧都の外。行。ぬよ。却說案のあ
い。鶴の前徳壽也と。もよ。安良子が親里。す。谷。す。案。山。四。昂。分。家。よ
寓居して。狩場の野雞の雄を莫も。柯よ離れ。蓑虫の父もと。もと
鳴る。もよ。もうの日の長なよ。暮。難。身。打。蟻。蝉のわ。安。乾
うね袖を片布。住つ。宿。水。月。秋。風。立。ひ。り。あ。る。安。良
ら。こ。く。良。よ。か。母。の。ゆ。と。よ。れ。收生を業。ひ。る。難。産。も。れ。が。あ

それば恙きと。見る婦ありゑへ彼此と。馬を牽。山轎をねり。
よひよび迎えよすん夫。素山四郎。いもじめ。名を根次年と。ゆれ。後夫。
安良よがなみ。送父。彼を素山四郎と。侃名。と。あれの前うる痴。田の
跡。よまちくら。あやで。おれやうる素山子を立かたる。目標と。り。行よ。
里入小伴の夫婦を。門田の素山四郎。奥の女の家。くる。とほひより。さて
治義え年の夏。安良よが給事。さる。は勝寺の執刑罪ありて。親族妻子を
そへ事。よめ。所從奉の筆も。まみ。四條ハ義よ離散。只。臂の蟻王の。ミ
忠義の志を。務。執刑の奥方。案の前。百心女鶴の前。二田の徒。あれを
扶掖。安良よと。ちよ。す。翁へ脱。と。耳。旧聞。姑よ縁由を。生れ。あし。

あじ。舍。あむれ。と。よ。ゆ。の。み。え。來。か。だ。よ。信。あ。を。女。み。ん。ば。死。ひ。推
辭。氣。き。す。十二の。妻。くら。安良よと。給。み。よ。も。う。と。ハ。重。庫。被。ひ。山。あれの

巢。ぐら。鳥。と。こう。子。の。どく。協。み。あ。ひ。て。も。う。た。物。う。ひ。く。ば。さ。く。お。の
て。あ。づ。う。え。あ。く。り。て。物。の。ひ。さ。ま。き。へ。化。する。坂。脱。く。と。て。捨。赤。光。門。の
内。も。か。く。ん。あ。じ。と。そ。や。好。男。子。の。じ。き。へ。せ。と。と。み。見。主。君。の。臣。君
う。恩。を。稟。く。恩。よ。答。ご。う。へ。獸。よ。者。も。う。貌。こ。そ。深。山。が。く。れ。の。老。木。荒
こう。ふ。荒。の。洛。入。よ。や。芳。ら。ド。と。る。ど。も。山。里。み。れ。バ。栗。の。阪。と。櫓。の。坂。や。う。大
き。う。で。へ。歎。待。あ。く。も。る。の。う。と。れ。ど。よ。厭。ひ。き。と。ど。へ。う。ま。で。も。う。ま。せ。じ
よ。婆。く。が。命。の。あ。く。ん。往。へ。と。も。か。く。も。も。ち。世。を。ぐ。正。さ。く。せ。う。べ。死。み。る。と
か。く。と。教。く。魚。一。が。棄。山。四。郎。へ。恩。も。義。も。已。見。ま。へ。利。を。の。そ。め。が。能。と。す。
鳴。吽。の。う。の。あ。く。り。れ。ば。安。良。子。が。夫。と。も。み。女。性。孺。君。三。人。す。く。主。の。供。
て。あ。き。る。を。よ。と。う。と。く。名。ひ。ま。う。法。捲。ま。ハ。坊。領。許。そ。あ。て。と。の
高。貴。ハ。世。よ。あ。う。と。あ。く。継。事。す。あ。よ。て。身。の。か。死。か。あ。く。あ。う。と。あ。古。何。え

水も固^シ。彼主従^ハが懷^シ。貯^リもあつねべ。とるふを慾^シのむあて^ス
信^シや^シよ官^侍り。ゆくて案の前親子^ハ。葉山四郎^ダかよあく^シ躲^シ。
樵夫炭燒^ホガ高^ヤ。うち暗^ト譚^テて往^カ來^カるふも。耳^を側^てきく^ス
俊寬^信。傍^ハ。年來平相^圖の憎^レとかがせ^ル入^カれバ。三条河^示す。斬
られ^カふとも^シえ。又知^リ經^ケ康^頼ホ^トも^シみ薩^六淳^ヘ流^され^カへとも^ス。
あれをゆ^キく^シよ。胸^を玲^レく^アげ^シと^シんの^ミあ^レど。かう^ド山城^のも^チ
う^れあれど。山^をそ^うき^ルバ。都^の夙^サも定^ムら^カう^レに。とくも^チ祖^シ
六月の^もぐ^る至^カ。締^サく^シ落^サし。俊寬^信、經^ケ康^頼三人^ハ。
疏^シ黃^嶋へ死^流され。翌^モの^テのう^ス私^生もと入^カま^スひ罵^るみぞ。り
赦^シせ^シゆ^きと。い^くかた^シで^シ神^仏み。か^レく^シ放^ハるも仇^とも^シ。案の前^の
哀傷^鶴の^あ。往^カ壽丸^の悲嘆^物え^シて^リ。ア^ガハ^セも^アぐ。三度^の食^も
奢^シよ^シと。骨^の肉^の身^の。夜^の経^夜。臥^カほ^シ寝^カ。嘲^カふを^アる^カ嬾^シ
ま^ス。こ^こだ^まく^ら。安^良子^ホ。胸^の墨^ト。心^の慰^モ。蠍王^ハ僧^都方^ヲ
取^カ。あ^ハ日^{。カ}め^カ途^シ。面^めの^シ形容^をも^シえ^シく^ス。
あ^ハ。仰^カも^シて^カ我^をう^けぬ^カ。室^をひ遣^カ。よ^リき^もま^くべ
へ^カ。俄^ハ頃^シ。家^へか^たね。こ^と木^の蠍王^ハ見^カ。龜王^ハ越^前國^ニ國^ス。
度^シが^シ悉^ヒ情^シ。う^きく^シゆ^ると^モを忘^レ。主^の要^金二^三而^兩を^遣ひ
果^シ。ひ^シ歸^カ京^を。か^くう^カ。左^右さんと。今^まま^は後悔^シ。
顔^もう^か人^がか^な。あ^くか^き。か^な。か^な。か^な。か^な。か^な。か^な。か^な。か^な。
よ^くろ^く。疏^シ黃^嶋へ死^流。か^くう^カと^シ。今^ます。櫛^カく^シ庭^を
掃^カく^シ。婿^の端^へくる。村^長も^シ。龜王^をえ^てく^シ。諸^人も^シは^シは^シ。
あ^かく^し。結^句。向^か某^段入^の餘^類。と^シ。窮^實と^シの^もわ^シと^シよ^リ

べ。龜王たゞよ蘇るを無く渡海よりみ程をすえりし。ところのものと
あへど病を因み死す。ゆ京せよ。傍歎に當日より。西八條又禁獄をも
と京極の宿所。鹿谷山莊の外より鎖して人を入れど女性孺君の
行方。才媛王夫婦の在処。行ひともぞうされど。八年向へてやもあへど。
身の過み形もたせよ捨られず住すれど。最も旅のひねられされど。投そ
やくばたおちす。さくら主のうりあんあくすをもえす。腹せん切ら
ふや。とおひ定めよ。よひひらら。栗田口よ宿をとす。緯の巻をも窺ぬ。
因みり。後深川院の御宇。正喜二年秋八月壬辰の日。諫訪刑部左衛門
入道左衛門尉平俊職を卒て。陽又伊具十郎を射殺す。緯發頭す。
刑部を圍み入道の首を刎き。平俊職は疏黄嶋より死す。彼俊職は刑
官廉頗の孫す。一曰朋友よかくりれ。心ひあひ伊具を刃害す。

又疏黄嶋へ流されたる死所を祖父とすくも悲しへ。亦冷泉院の
安和二年四月。帝久しく物狂へ生ぜり。西宮左大臣高明公隱
謀の企あり。橘紋延僧連茂田原千晴。寺田満仲うんとを密に
集合。西宮殿の隠居す。満仲同意らむ。と。膳子。律の説を養はる。あ
と計取れど。満仲同意らむ。と。急に流罪せられたる。蓋裏記の説是
されば。西宮殿以下の堂宇まで。急に流罪せられたる。蓋裏記の説是
あこぞ。満仲朝臣の回忠す。あくど。君のたゞ自のたゞ援群の忠節と
りふへ。もうよ。寺田行綱。満仲八代の末孫也。既に。其親卿の陰謀
ふ手へ。うちよ。中をもよ。それをお告げ。と。満仲と行綱との説が相
似く。れども。その志の雲泥の差あり。亦悲しきこと。

